

美川小学校の児童と共に

美川地区少年相談員 上村 康子

桜の花満開の四月南桑の町に、徒歩で通学する児童ができ、駅前の横断歩道を渡るので見守りに・・・兄弟はとても元気で、お兄ちゃんの後を弟が嬉しそうに学校のことなどを色々話してくれ、私の知らない事もあり、少しの距離ですが楽しい時間が過ごせています。

夏休みのラジオ体操には、4人の児童が毎朝出席してくれ、6年生の國弘君は、誰よりも早く出て、体操を一生懸命し、印鑑を押してくれました。地域の私たちも「休まず出席しなければ」と思わせる気持ちにしてくれ、よく起きることができたと感謝しています。

運動会まであまり日がないのに、みんなとても気が合い、上級生は下級生に負けない小規模校ならではの、どの子も行き届いた心遣いを感じ、立派な運動会だと感激しました。どの子も知っているのも、赤白リレーでは、思わず大声で名前を叫んでいました。これからも地域でできることは、協力していこうと思います。

指導者研修会での講演会を聞いて

PTA 副会長 三浦 亮子

講師は元NHK『ためしてガッテン』の制作をされていた北原一さんで、ガッテン流！行動変容のさせ方という内容の講演でした。

行動変容のさせ方、いわゆる人に『やる気をださせる方法』について。家庭の中では、子どもに勉強をさせたい、健康に気をつけさせたい、とさせたい事がたくさんあるのに、子どもは、なかなか言う事を聞いてくれずにしてくれない。それは、『させ方』というか『やり方』、やりようが間違っている。やりようを工夫し、ついついやっちゃう、やってみたくなっちゃうように仕向けることが大事ということ。そして、嬉しい気持ちになると頑張れてどんどん結果につながってくるのだと。

この、ついついやってみたくなる工夫。例えば、健康診断の受診を促すチラシの見出しで言うと、通常は『胃がん検診のお知らせ』だけど、ひと工夫して『社内人気イケメンも受けてみた！』社内No1イケメンのバリウム体験レポートのように、興味を持ってもらいやってみたい気にさせる、というもの。このひと工夫がすごく難しい・・・。なかなかの発想の転換を図らなければ思いつかない。。。だけど、この考え方の根底にあるものは、相手の事を思い、自分が楽しく取り組むことができるということがあるように思う。そう考えてみるとまずは、子どもに注意してばかりでなく、少しやり方（言い方）を変えて楽しい雰囲気に変えるだけでも効果があるかもしれない。



第48回日本PTA中国ブロック研究大会
山口県岩国大会の様子（11月10日）

編集後記

行事の多い2学期は『スマイル』も毎年読みごたえのあるものになっているのですが、今回は更に「わが子に読んで欲しい思い出の一冊」というページを設けました。是非読んでみてください。保護者の皆様、お忙しい中ありがとうございました。それでは良いお年をお迎えください。

来年もよろしくをお願いします。

広報部2学期担当 國弘・中村